

Wú suǒ qǔ cái
无所取材ざい
材を取る所無し〈公冶長第五〉うえだ あつ お
桜美林大学名誉教授 / 孔子学院講師 植田渥雄

孔子は生涯を通じて自己の信念を曲げなかった人です。「吾が道は一以て之を貫く」〈里仁第四〉という言葉がそれを端的に示しています。しかし一方、ひたすらただ頑固一徹であったかという、必ずしもそうではありません。時として本音とも弱音ともつかぬ言葉をポロリと漏らすことがあったようで、それが『論語』のあちこちに見られます。以下もその一例です。ある時、孔子は子路に向かってこう言いました。

「道不行，乘桴浮于海。从我者其由与？(Dào bù xíng, chéng fú fú yú hǎi. Cóng wǒ zhě qí yóu yú?)」(道行われず。桴に乗って海に浮かばん。我に従う者は其れ由か)〈公冶長第五〉。世に道義が行われなくなってしまった。もはやどうにもならない。桴にでも乗って海に浮かびたいものだ。私に付いて来てくれるのは子路かな？と。由とは子路の本名です。「桴」とは小さな筏のことです。「海に浮かぶ」とは俗世間を離れて世捨て人になることを暗に仄めかしているのでしょうか。

孔子は常日頃から隠者に強い関心を持っていました。かつて伯夷と叔齊の兄弟は、周の武王が悪逆無道な殷の紂王を滅ぼした時、武力でもって殷を滅ぼした武王に帰順することを拒否しました。そこで節を守って隠者となり、最後は首陽山で餓死しました。孔子が生まれる500年も前のことですが、孔子はこの二人を「賢人なり」「仁を求めて仁を得たり」〈述而第七〉と言って称賛しています。また、孔子と同時代にも、乱れた世に同調できず、世捨て人になる人が数多くいました。こういう隠者たちに対しても、孔子は底分の敬意を払っていました。隠者は世の悪事に染まることなく、常に清廉潔白であったからです。しかし、いったん隠者になってしまえば、世直

しに関わることはできません。世直しに関わる人がいなければ、世の中が良くなるわけがありません。そこで孔子は、一方で隠者たちに心惹かれながらも、やはり世の人と共に生きる以外に道はない、と言って彼らとは一線を画していました。

しかし現実の世は孔子の思いとは逆方向に進むばかりです。ここに至って孔子の心は、秘かに敬愛する隠者の生き方に傾きかけたのかもしれませんが。一方、頭の単純な子路にはそんな孔子の複雑な思いがわかるわけがありません。

文は次のように続いています。「子路聞之喜(Zi lù wén zhī xǐ)」(子路之を聞いて喜ぶ)。今でもそうかもしれませんが、小さな筏で海に浮かぶことは、当時の常識では考えられないことです。しかし勇猛果敢で知られた子路にとっては、敬愛してやまない孔子から、そんな危険な行為の相棒に自分だけが抜擢されたことは、望外の喜びでした。師匠の為ならたとえ火の中水の中、という心意気だったのでしょう。

孔子はかつて子路の無謀な勇敢さを何度もたしなめたことがあります。そのことに孔子はハタと気付きました。「これはいかん」と。そこで次のように締めくくります。「由也、好勇过我！无所取材。(Yóu yě, hào yǒng guò wǒ! Wú suǒ qǔ cái)」(由や、勇を好むこと我に過ぎたり。材を取る所無し)。子路は私以上に勇敢だなあ……。ところで。筏を作る木材はどこにあるというのかね、と。こう言われてみると木材らしきものは見当たらない。さすがの子路も諦めざるを得ません。

かくして、孔子の密やかな心の揺れに気付く人はいませんでした。

(わりい「中国語で読む漢詩の会」講師)